

- 《履修上の留意事項》1. 授業資料を配付する場合には、重要ポイントなどをメモとして適切に書き留めること。
2. 授業終了後、授業内容をまとめる習慣を身に付けるように努めること。

《担当者名》教授 / 古市 保志furuichi@ 教授 / 飯嶋 雅弘iijima@ 教授 / 中山 英二enaka@
教授 / 斎藤 隆史t-saito@ 教授 / 川上 智史kawakami@ 教授 / 三浦 宏子hmiura@
教授 / 越智 守生ochident@ 教授 / 越野 寿koshino@ 教授 / 齊藤 正人msaitoh@
教授 / 永易 裕樹nagayasu@ 教授 / 舞田 健夫tmaida@ 教授 / 疋田 一洋hikita@
教授 / 長澤 敏行nagasawa@ 教授 / 會田 英紀aita@ 教授 / 照光 真terumitsu@
非常勤講師 / 蓑輪 隆宏 非常勤講師 / 仙場 千晴 特別講師 / 谷代 久恵

【概要】

社会生活全体の立場からみて、歯科医師の医療人としての存在意義を知るとともに、歯科医学における臨床知識の内容について理解する。

【学修目標】

歯科医師の医療職としての社会的使命とその意義が説明でき、将来歯科医師として社会で活躍するための到達目標を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	噛むことと健康	<p>学習目標 噛むことと健康のつながりを理解する。 災害時における歯科医療の役割を理解する。</p> <p>コアカリ:A-7 社会における医療の実践 A-7-1) 地域医療への貢献 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度</p>	越野 寿
2	本学同窓会として社会に貢献できること。	<p>学習目標 本学部同窓会として地域社会に貢献している実績を紹介し、その意義について理解する。</p>	蓑輪 隆宏
3	開業医として社会に貢献できること。	<p>学習目標 開業歯科医師として社会に貢献している実績を紹介し、その意義について理解する。</p>	仙場 千晴
4	患者の立場から見た歯科治療	<p>学習目標 患者の立場からの歯科医療について理解する。</p>	谷代 久恵
5	歯並びと健康	<p>学習目標 良い歯並び・咬みあわせ（正常咬合）を理解する。 悪い歯並び・咬みあわせ（不正咬合）の種類と口腔及び全身の健康に及ぼす影響を理解する。 不正咬合の診断、治療に必要な基礎知識及びその治療方法（矯正歯科治療）を理解する。</p>	飯嶋 雅弘
6	<p>歯科診療と審美</p> <p>デジタル技術と歯科診療</p>	<p>学習目標 歯科診療における審美のあり方を理解する。</p> <p>学習目標 歯科におけるデジタル技術の活用を知る。</p>	舞田 健夫 疋田 一洋
7	<p>歯科における臨床教育</p> <p>高齢者歯科学を知る。</p>	<p>学習目標 歯科における臨床教育について概要を理解する。</p> <p>学習目標 高齢者歯科学を学習するうえで必要となる関連学問領域について理解する。</p>	長澤 敏行 會田 英紀
8	う蝕を知る	<p>学習目標</p> <p>1. 歯の構造と機能の概要を理解する。 2. う蝕とその他の歯の硬組織疾患の概要を理解する。 3. う蝕とその他の歯の硬組織疾患に対する治療の概要</p>	斎藤 隆史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		を理解する。 授業内容及び学習課題 1. う蝕とその他の歯の硬組織疾患およびそれらに対する治療の概要を解説する。 E-3-1)- 、E-3-2)- 、E-3-3)- (1)	
9	子供の歯科治療	学習目標 乳歯・幼若永久歯の重要性について理解する。 正常な口腔の発育について理解する。	齊藤 正人
10	口腔外科を知る。	学習目標 1. 歯科診療における口腔外科の位置づけを理解する。 2. 顎・顔面領域の疾患について概要を理解する。 3. 顎・顔面領域の疾患の治療法の概要を理解する。	永易 裕樹
11	放射線を知る。	学習目標 1. 放射線とはなにかを理解する。 2. 放射線が医療にどのように利用されているかを理解する。 3. 歯科医療において放射線学を学ぶ意味を理解する。 授業内容及び学習課題 1. 放射線学の概要と歯科医療における放射線学の必要性を解説する。 2. 講義の最後に簡単な確認テストを行う。	中山 英二
12	麻酔を知る。	学習目標 1. 歯科麻酔が臨床で果たす役割を理解する。 2. 歯科麻酔学を学習するうえで必要となる関連学問領域について理解する。	照光 真
13	インプラントと再生医療	学習目標 歯科におけるインプラントと再生医療の役割を理解する。	越智 守生
14	健康の意義	学習目標 医療人としての健康の意義を理解する。	川上 智史
15	歯科保健を知る。	学習目標 我が国の歯科保健状況について知るとともに、歯科保健の社会的意義について理解する。	三浦 宏子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（100％）

- ・ 授業内容について授業終了時に実施する小テストにより評価する。

【学修の準備】

予習として、次回内容についての理解を自己学習にて深める。（80分）

復習として、毎回授業後に小テストを実施するので、分からなかった箇所の講義内容を理解する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するための基礎知識を学修する（専門的実践能力）。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーションの基本能力を身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる基本能力を身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必

要な基本知識を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域のおよび国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な基本知識を学修する（社会的貢献）。

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）、飯嶋 雅弘（歯科医師）、中山 英二（歯科医師）、古市 保志（歯科医師）、川上 智史（歯科医師）、三浦 宏子（歯科医師）、越智 守生（歯科医師）、越野 寿（歯科医師）、齊藤 正人（歯科医師）、永易 裕樹（歯科医師）、舞田 健夫（歯科医師）、疋田 一洋（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、會田 英紀（歯科医師）、照光 真（歯科医師）、蓑輪 隆宏（歯科医師）、仙場 千晴（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、幅広い歯科医療の展開を説明し、目指すべき歯科医師像の構築に寄与する教育を行っている。